

「父母も生の由来を知らず・・。

我が身も死の所去を悟らず。」

弘法大師様『秘蔵宝鑰』

赤ちゃんの誕生は、回りの人々に希望を芽生えさせ、親しい人の臨終は、言いようも無い喪失感をもたらします。

ですが、誕生と臨終には、幸不幸の問題以上に、「尊厳」と言う、是非の了見を越えた、計り知れない命の継承が存在しています。

誕生に際して、「出来てしまったから」「望んでもいなかったのに」などと言いつつ放ち。臨終に際しては、「葬儀をしなさい」「人には言わない」などと、人生の最

後を否定する様な、軽々しい言葉が横行しています。

新しい命の尊厳は、両親の意図とは関係ありません。また、臨終に際しての尊厳は、納棺・葬送・火葬・骨揚げ・埋葬と、誰もが、この作法を通じて護られ、例え、身内が居なくても、誰かがそれを担って実行しています。

お釈迦さまも、弘法大師さまも、生死の尊厳は厳重に護っておられます。また、一定の結論で片づける様な事はしておられません。悠久の智慧に随うことも尊厳です。

平成二十六年秋季彼岸会

南山 沙門 修詮記